

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201289		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟		
所在地	札幌市北区東茨戸2条3丁目2-1		
自己評価作成日	平成27年5月1日	評価結果市町村受理日	平成27年6月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0170201289-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年5月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

郊外にあるホームは、周りに緑も多く自然環境に恵まれている。また、ホームで飼っている動物とのふれあいやホームに隣接するウッドデッキや中庭を散歩する等、穏やかな環境の中で過ごすことができる。
リビングに設置されている大きな窓からは日差しが入り明るい雰囲気である。
また、各居室には洗面台とトイレが各々設置されており、プライバシーへの配慮もなされ、廊下においても車椅子同士がすれ違えるよう広めになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市郊外の閑静な住宅地にある平屋建て2ユニットのグループホームである。大きな中庭があり、鳥の鳴き声が聞こえるなど、恵まれた自然環境である。周辺には同一法人が経営する複数のグループホームや協力医療機関があり、協力が得られやすい。共用空間が広く、居間は吹き抜けで天窓があり、窓が大きく明るい。壁には利用者の写真や、絵画、貼り絵などの作品、小学生からのメッセージなどを数多く掲示し、楽しい雰囲気を作っている。居室が広めで、トイレと洗面所が設置されプライバシーを保ちやすい。近所の子供たちが気軽に来訪したり、小学校の児童が学習発表会やよさこい踊りの演技を披露しにホームを訪れて交流している。家族の来訪が多く、定期的にアンケートを実施し、家族の意見を運営に反映している。法人全体の指導のもと、各種のマニュアルや書式が整っており、職員同士の協力体制や人間関係も良好である。介護サービスの面では、利用者の基本情報や課題分析、介護計画が整備され、職員が内容をよく理解し、日々の記録や介護計画の見直しを適切に行っている。医療面では複数の科目の往診が利用でき、協力医療機関が近いため、利用者や家族の安心につながっている。また、サービス評価に対しても職員参加のもと、各ユニットで真摯に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(3号棟アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念・施設理念・ホーム目標・ユニット目標があり、入居者や来訪者にも見えるように玄関やユニット内に掲示している。4月に、其々の理念と目標を再度認識する為のユニット内研修を実施した。	法人のグループホーム部門共通の理念の中で「社会的緩和(地域と共にあること)」を掲げている。また、ユニット毎に目標(年間目標)を作成し、理念や目標を記したカードを携帯して共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中庭は常に解放しており、近所の子供達が来訪しふれあう事も出来る。また、地域の小学生がヨサコイや豆まき等、定期的に来てくれるが、地域住民との交流は夏祭りの来訪と運営推進会議の出席に留まっている。	近隣の子供たちが気軽に事業所を訪れている。また、茨戸小学校の児童が学習発表会の案内やよさこい踊りを披露しに事業所を訪れている。中庭で行う事業所の夏祭りに、地域の方の参加を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で施設の特性や日常の様子を報告する事で理解して頂けるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議が定例化し開催されており、有意義なものになっていると感じる。家族参加に関して、昨年度は防犯や薬に対する知識等で外部より講義を行ってもらったが、参加率があまり伸びないのが現状である。	会議は2か月毎に開催され、地域包括支援センター職員や介護予防センター職員、町内会長、民生委員、利用者家族の参加を得て、感染症や成年後見制度、防犯、外部評価などのテーマで意見交換している。議事録を家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連絡等は、主に統括管理者が行っており、介護保険の更新時には、ユニット管理者が利用者の状況報告を行うのにとどまっている。また、運営推進会議において、地域包括センターから意見を頂き、日々のケアに繋がるように努めている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加を得ている。市役所や区役所に相談事があれば統括管理者が窓口となり、役所に出向いたり電話で相談している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、ユニット会議やユニット内研修で職員に周知させている。玄関の施錠も防犯目的で夜間のみ行っている。言葉の拘束についても、職員同士が互いに注意を払い、日々ケアを実施している。今年度に関しても、ユニット内研修を計画している。	身体拘束の禁止の対象となる具体的な行為を記したマニュアルや、グループホーム協会の小冊子を参考に勉強会を行い、理解を促している。玄関は日中施錠せず夜間のみ施錠しており、玄関ホールに事務所が隣接しており、利用者の出入りは見守りで把握している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ユニット会議やユニット内研修、カンファレンスにおいて話し合い、日々の業務の中でも意識しながら虐待防止に努めている。また、入浴時や更衣時には、全身のチェックも行っており、言葉の虐待についても常に念頭においてケアを実施している。今年度もユニット内研修を予定している。		

グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前年度においては、成年後見制度について具体的に学ぶ機会がなく、現在該当者がいないものの、事業所としては必要に応じて支援できる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、主に統括管理者より十分な説明を行っており、その他の不安や疑問にも耳を傾け、納得してもらうよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置と苦情処理担当者を配置する事により意見を述べ易いよう配慮しているが、家族来設時に直接意見を聞かせてもらう事が多い。また、毎年ご家族へのアンケートを行い、職員に周知することで意見の反映に努めている。	毎週のように家族の来訪があり、その際に意見を聞いている。また、年に1回、家族アンケートを実施している。アンケートの結果を踏まえ、食事の改善を具体化している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	統括管理者による個人面談や日常の勤務の中では、ユニット管理者が職員と話す機会を作り、意見を聞く事が出来ている。ユニット会議においても、それぞれの職員が意見を言いやすい環境にあると判断する。	毎月、ユニット会議を開催しており、職員の意見をもとに業務分担の適正化を実施している。統括管理者と職員の面談を定期的に行っている。職員は、行事やお便りづくり、環境整備、防災などの業務を分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の代表者と直接面談の機会がないことや、就業環境が改善されない点から考えて、法人として現場の就業環境の整備に努めてくれているかどうかは疑問が残り、職員がやりがいや向上心を持って働けているかどうか疑問である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修・内部研修共に研修の機会が設けられており、職務の都合がつく限り参加が出来ていた。また、参加した職員により、ユニット会議で伝達研修を行った。前年度より、月1回のペースでユニット内研修を開催しており現場の状況に合わせた研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	回数は多くはないものの、外部研修、内部研修を通じて、他法人や同法人内の職員との交流や意見交換の場となるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に面談や見学を行い不安な事や希望を確認した上で入居してもらうようにしている。また、入居後の不安などについては、本人・家族からの聞き取りを行い、職員間で情報交換しながら信頼の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時点から、家族が不安に思っている事や困っている事に耳を傾けている。入居後は日常の様子や細かい変化を報告することで信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ほとんどが入居を前提としての相談であるが、本人と家族がその時必要としているサービスを見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者個人の生活歴や性格を尊重した上で関わり、ユニット会議や研修を通じて、協力し合える関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内での生活の様子を伝え、家族の面会や支援も重要である事を理解してもらい、必要に応じて相談し協力を得ている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙のやりとりがある方もおり、来訪は何時でも可能で、昔からの友人の来訪もあった。また、家族の協力のもと急な食事に出かける場合においても、できる限り対応しており、関係を継続できる雰囲気作りにも努めている。	各ユニット1名ずつほどの利用者に友人が来訪している。その他の利用者も電話や手紙のやり取りを支援している。家族と一緒に墓参りや理容院に出かける方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者個々の性格やレベル差があり、時折トラブルも見られる。職員が仲介し其々が孤立しないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退居時に関しては、すぐに関係を断ち切る事はなく、家族や入院先からの経過報告はもらえている。その他においては、自然と疎遠になっているのが現状である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中で、思いを伝えるのが困難な方においても仕草やサインを見逃さず、会議やカンファレンスにおいて共有しながら、本人の立場に立った対応をするよう検討している。	半分弱の利用者は言葉で思いや意向を表すことが可能で、難しい方の場合も表情などから把握している。利用者の基本情報や課題分析シートを3か月毎に作成し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族、および過去のサービス利用者から情報収集を行い、職員間でも会議や連絡ノート等で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に詳細な記録を残し、日々の申し送りや職員間の連絡ノートおよび会議、カンファレンスにおいて現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスにおいて、計画作成担当者と居室担当者・他職員によってモニタリングと同時に検討を行い、サービス計画書を作成している。同時に家族来訪時には、本人の現状を具体的に話すことで家族からの意見をもらう事ができている。	3か月毎に介護計画を見直ししている。居室担当者と計画作成担当者がモニタリングを行い、カンファレンスで意見を集約し、計画を作成している。日々の生活記録も計画を参照し、番号を記入しながら、目標に対応した記載を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	其々の個人記録への詳細な記録が定着化し、出勤時には必ず目を通す事で情報共有ができていと感じる。利用者の変化時には対応できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況変化のある利用者のニーズに対応しサービスを変更してはいるが、既存の枠を超えてという点では、柔軟さにかけていた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は把握しているが、近隣の小学生の訪問と夏祭りの来訪に留まっているのが現状。ボランティアは随時受け入れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院の訪問診療で対応し、他科受診が必要な場合も対応できている。また、提携病院外のかかりつけ医がいる方は、家族対応にて定期的に受診している。	ほとんどの利用者が協力医療機関による内科、精神科の訪問診療を受けている。他科目も協力医療機関が至近のため通院しやすい。他のかかりつけ医も必要に応じて通院を支援している。個人毎の受診記録を作成し、共有している。	

グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の看護師が担当制で、週一回訪問してくれる為、日々の生活や心身の状況を共有できている。その為、電話での相談においても迅速かつ速やかな受診に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状況を伺ったり、看護師や相談員、家族との情報交換も行っており、関係者との関係作りはできている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化についての説明はさせて頂いており、体調変化の際には家族、主治医、管理者との面談を行い今後の方針を検討し、状況に応じて適切な対応ができていますと感じる。	利用開始時に「重度化した場合における対応に係る指針」を説明して同意を得ている。食事の経口摂取が難しくなった場合などは、事業所での対応が難しい旨を説明している。実際に重度化した場合は協力医療機関に入院となる場合が多く、事業所での看取りは行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備し、職員にはシュミレーションを行ってもらっている。前年度には、2ユニット合同での実践形式の研修を行い、今年度も実施予定である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は実施しているが、地震や水害などの災害訓練は行っていない為、今後は地震なども想定した訓練を行いたいと考える。近隣には同一法人の施設があり、協力体制も整っている。	昼夜を想定して年2～3回の避難訓練を行い、うち1回は消防署の協力を得ている。一方、地域住民等の訓練の参加は得られていない。職員は定期的に救急救命訓練を受講しており、災害時に必要な備蓄品もリストに沿って用意している。	避難訓練に、地域住民や近隣にある法人の関連施設の職員等の参加を得ることで、災害時の協力体制の充実を図ることを期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人のプライバシーを損ねないように耳元での声掛けや訪室しての声掛けを行うなど、常にプライバシーを損ねないように配慮している。また、会議で随時言葉使いに対しても話し合いをしている。	利用者の呼びかけは苗字や名前に「さん」付けとしている。一方のユニットでは定期的に接遇の研修を行っている。個人情報、台所の棚にカーテンをかけて名前が見えないように保管している。	人格の尊重とプライバシーの確保について具体的に確認できるよう、両ユニットで定期的に接遇等の勉強会を行うことを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	あらゆる場面で、急がせずに自己決定できるような場面設定に心がけている。理解が困難な場合には、ジェスチャーや表情などで汲み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課において、大まかな決め事はあるが利用者個々人の体調や気持ちに配慮し、思い通りに過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族にも協力してもらいながら、季節に合わせた服装が出来るよう、また自分で選ぶことが出来るように支援している。一部ではあるが、化粧をしている方もいる。		

グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事の際には、好みのメニューを提供するように努め、調理に関して簡単な下ごしらえや後片付けを一緒にいき、食を楽しめるよう支援している。	しめじの塊をほぐしたり、もやしひげ根取り、野菜切り、下膳、食器洗い、食器拭きなどの準備や片付けを利用者が手伝っている。外食行事も取り入れ、誕生日には本人の希望する献立にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に食事の摂取量・水分摂取量を記録し、それを元にして食事や水分摂取量を確保出来るように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けで促す方、全面的に支援が必要な方を問わず、全員が起床時、就寝前、毎食後に口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の安眠を促す目的で、夜間のみりハビリパンツを使用している方はいるが、日中は、布パンツに交換し個々人のパターンを把握し、時間毎の誘導を行い失敗を減らせるように努めている。	各ユニットでシートの工夫をしながら一人ひとりの排泄間隔を把握している。トイレは、各居室にあるので「お部屋に行きましょう」とプライバシーに配慮した声かけで誘導し、排泄の介助をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の申し送りによって、排便状況を職員で共有している。排便困難な方には、腹部マッサージ、時には坐剤の使用によって便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴を実施しているが、職員複数名での対応が必要な方もおり、ある程度曜日を設定している。但し、発汗時や体調によっては、曜日や時間にとらわれずにその時に見合った支援を実施している。	3号棟は日曜日以外の毎日、4号棟は毎日入浴できる体制となっている。一人の利用者が午前中に週に2~3回入浴しており、日替わりで入浴剤を使っている。家族と温泉に出かける利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を踏まえた上で、申し送りによりその時々情報を共有し、生活リズムを整えることで安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がいつでも確認できるように内服薬情報を一冊のファイルにして保管している。内服薬変更時は、連絡ノート記載や申し送り等で留意すべき点を把握し観察を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人の生活歴や日々の変化を見ながら、余暇活動や手伝いを行ってもらうように声掛けを実施している。其々の楽しみや役割、気分転換になっていると考える。		

グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力の元で外出されている方が数名いる。また、中庭への散歩やウッドデッキへ出ての外気浴等、車椅子の方でも、できる限り外の空気を吸う事が出来るように支援している。 外食や公園へ出かける機会も作れるように努めている。	広い敷地内の中庭を散歩したり、ウッドデッキに出て外気浴をしている。4月から10月までは、毎月その季節毎の花見や紅葉狩り、外食などの外出行事を実施している。2月には、大型商業施設に出かけているが風が強く積雪が多い地域性もあり、冬の外出は難しいのが現状である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の入居者ではあるが、お金を所持・管理しており外出の際には、好きなものの購入をすることができている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内にポストが設置されており、職員の手でいつでも手紙を出せるようになっている。ホームに届いた手紙も直接本人に渡している。電話のやり取りは、あまりない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング全体の日当たりが良く、日差しが強すぎたり、暑くなりすぎないよう、常に気を配っている。また、廊下やリビングには日常の様子や外出の様子がわかるような写真も掲示している。	玄関を入ると熱帯魚が泳ぐ大きな水槽があり、左右に2つのユニットがある。ソファや丸テーブルを置いても車いすの使用が可能な廊下の両側に、各居室が配置されている。対面キッチンを備えた台所と居間は、ウッドデッキに囲まれ、吹き抜けの天井の天窓から日差しが入る明るく開放感のある共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	随所にソファを置き、そこでいつでも寛げるようになっている。そこで、入居者同士が会話をしたり、其々が思い思いの場所で過ごす事ができるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室は広々としており、入居時には使い慣れた家具の持ち込みも可能である。入居後に、本人や家族と相談しながら、本人にとって居心地の良い空間となるよう配慮している。	居室にトイレと洗面所があり、窓からは草草が広がる中庭や鶏小屋が見える。野鳥のさえずりも聞こえてくる穏やかな生活環境である。仏壇や遺影、冷蔵庫、机、椅子、テレビや観葉植物などを置き、居心地よく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にトイレや洗面台が設置されており、空間にも余裕があり、車椅子での移動も容易である。随所に手すりも設置されており、それらを生かし、常にできることへの支援に努めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201289		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟		
所在地	札幌市北区東茨戸2条3丁目2-1		
自己評価作成日	平成27年5月1日	評価結果市町村受理日	平成27年6月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「3号棟ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0170201289-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年5月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(4号棟アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人・事業所の理念があり、施設内に掲示し来訪者などだれでも見れるようになっている。職員はそれぞれが常に携帯することで、いつでも目に留まり、理念を共有し実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所周辺には住宅は少ないが、近隣小学校の定期的な訪問があったり、近所の子供たちが庭に遊びにきたり、入居者との交流が来ている。又、町内会を通しての交流は運営推進会議での情報交換に留まっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、施設の特性や日常の様子を報告する事で、認知症への理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行っており、入居状況の報告等を行っている。全家族への参加を呼び掛けているが、参加率が低いのが現状である。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や区の管理者連絡会を通し、情報提供があったり運営推進会議の際に地域包括支援センターからの意見を頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、ユニット内研修で日々のケアを振り返り身体拘束を行わないケアを実践している。又、施錠に関しては、防犯面を考慮し夜間のみ行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット内研修やカンファレンスなどで学ぶ機会があり、日常のケアを通して、身体チェックを行い異変がないか注意を払っている。言葉による虐待や抑制についても、常に意識してケアにあたっている。		

グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前年度は学ぶ機会はなかった。成年後見制度については、現在該当者はいないが、事業所としては必要に応じて支援する体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	概ね統括管理者が対応しており、契約時に十分な説明を行い、不安や疑問点に関しても耳を傾け理解・納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や苦情処理対応者・第三者機関を設置しているが、直接管理者や職員へ話せる環境作りが出来ており、意見箱は殆ど利用されていない。毎年ご家族へのアンケートも行っており運営に反映できるよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	統括管理者との個人面談を行ったり、ユニット会議や日々の業務を通して、意見交換や提案をする機会を設けており、都度改善し反映できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準や労働時間などは、法人内の規定があり、やりがいや向上心を持って働けるような整備がされているかは、不明である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ほぼ毎月ユニット研修を行い、必要に応じてその時のユニット内のニーズに合わせてテーマを決めている。外部研修に関しては、あまり機会を設ける事が出来なかった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に数回、グループホーム管理者会主催の職員研修や内外研修があり同業者との交流する機会がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にはほとんどの場合ご本人にお会いして情報収集・困っている事や不安な事への聞き取りを行い安心して入居できるよう努めている。入居初期にはカンファレンスを行い、ご本人の状態を把握する事で、安心して暮らせる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居開始前にご家族・ご本人との面談を通して、ご家族の不安や要望などを聞き取り、入居後も面会時などにお互いに情報交換を行なうなど関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の段階で何を支援すれば良いのか、本人に合った対応を見極めている。又、入居に関する問い合わせの際も本人、家族の意向などを踏まえた上で適切なサービスの見極めと支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を介護される一方の立場とは考えておらず、日常生活の中での喜怒哀楽を共有し互いに暮らしを共にすることで、信頼関係が築けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など、普段の様子を伝えたり家族と過ごす時間を大切に出来るよう居室で過ごして頂いている。可能であればご家族と一緒に外出する機会を設けて頂いたり、本人を中心とし、職員・ご家族共に一緒に支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	主にご家族との関わりが多いが、遠方に住む家族や親戚との手紙や電話の希望時には支援している。入居者の中には知人の面会があったりと、なじみの方との関係が継続できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者同士の関係を把握する事で関わり合えるよう支援している。又、意思疎通が困難な入居者に対しても、職員が仲介し孤立しないよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後すぐに関係を断ち切る事はなく、必要に応じて相談や支援出来るよう体制作りにも努めている。又、時々ではあるが退去された方のご家族の来訪もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを大切に、一人ひとりどのように生活したいか、希望を聞き本人の意向の把握に努めている。又、思いを伝えられない方に関しては、表情・言動から思いをくみ取り、把握できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には、これまでの生活歴を本人や家族から聞き取り、入居後もご本人との会話の中でどんな暮らしをしてきたかなどの情報収集をし職員で共有し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を記録や申し送り・アセスメントを通して職員間での情報の共有に努め、変化があった場合でもそれに合わせたケアに繋げている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者によるモニタリング後、カンファレンス時に職員全員でモニタリング結果について再度検討している。ご家族や本人からの意見や要望も聞き取り介護計画に反映できるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な気づきも共有できるよう個人記録へ記録し情報を共有している。又、申し送りノートを通して受診結果や状態の変化について把握し易いよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに合わせて対応している。おおよそのニーズに関しては既存のサービスで対応できている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域自治体の活動は把握しており、その他、ボランティア等も受け入れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院を主なかかりつけ医とし、2週に一回の訪問診療と週に一回の訪問看護があり必要性や希望に応じて他科受診も出来るよう支援している。		

グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の訪問看護の中で、日常の状態などを報告し共有している。又、24時間連絡可能であり、医師との連携も行い必要時には受診等の調整も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は添書の他、口頭での情報伝達を行っている。入院中の状態はソーシャルワーカーや看護師、ご家族などと連絡を取り退院に向けての話し合いも行なわれており病院との関係作りが出来ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化への対応や方針を説明し同意を得ている。又、疾患に合わせ都度病院や家族と話し合いを行い支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に迅速に対応出来るよう分かりやすい所にマニュアルを完備し、ユニット内研修を通してシミュレーションを行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関しては、定期的に昼夜それぞれを想定して訓練を行っているが、水害や地震に対しては不十分な面もあり今後訓練を実施したい。又、備蓄品などの整備も行っている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の管理には徹底している。プライバシーを損ねないよう一人ひとりの人格を尊重し、やさしく丁寧な言葉掛けを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望の意思表示や自己決定できるような支援を心がけている。又、自己決定できない方に関しては、本人の表情やサインから読み取り対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間を気にせず一人ひとりのペースや生活リズムで過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれ好みの服装が出来るよう支援している。又、自身で出来ない方に関しても、その人らしい身だしなみが出来るよう支援している。		

グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや配膳、後片付けなど、可能な限り入居者と職員と一緒にやっている。食事時間は音楽を聴きながらゆったりとした雰囲気作りに努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分共に一人ひとりの摂取量を把握している。カロリー・塩分も計算されており栄養バランスも取れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要量に応じて毎食後それぞれに行っているが、自立されている方に関しては、声掛けや確認に留まっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し排泄パターンを把握したり、食事・水分摂取量を把握し、考慮したうえで失敗せずに排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因・影響等については、職員それぞれ理解している。朝食前に乳製品を提供したりと、できる限りの自然排便を期待している。必要に応じて坐薬や内服薬で管理している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	特に曜日の固定はせず、概ね3日に1回のペースで入浴できるよう支援している。又、入浴日以外にも希望時や必要に応じて入浴している。リフト浴も設置しており、身体状況に合った入浴方法を取り入れている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調の変化に注意し必要に応じて休息の声掛けなど行っている。夜間安眠できるよう、日中の活動量を多く取れるよう声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬情をファイルし、作用・副作用がいつでも確認できるようにしている。又、内服に関しては誤薬がないように、独自のチェック表を作成し何れも確認し注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの希望する役割や楽しみなどを通して楽しく充実した生活を送れるよう支援している。		

グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事は可能な限り希望に沿った場所へ外出できるように検討している。又、ご家族と外出される方も数名いる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能で希望されている方のみ所持しているが、実際に使うことはほとんどない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された際にはいつでもできるよう支援している。家族や知人の方などからの電話が入る事もあり、取りついでいる。ホーム内にポストも設置しており、手紙など自由に出せる環境を整えている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備や室内の温度調整は常に心がけている。写真を掲示したり季節に合わせて装飾を変更している。玄関ホールの熱帯魚前にも椅子を配置し、楽しみや気分転換の一つ・日課となっている方もおり居心地よく過ごしていただけるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外でも、好きな時に好きな場所で寛げるよう、ソファやテーブルなどを配置し思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使い慣れた馴染みの家具や私物の持込みが可能であり、居室のレイアウトも使い易いように配置しており、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事やわかる事を見極め活かし、出来る範囲、わかる範囲で安全に行なえるよう支援している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟

作成日：平成 27年 6月 15日

市町村受理日：平成 27年 6月 17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	昼夜を想定した火災訓練を年に2~3回実施しているが、地域住民等の訓練の参加は得られていない。	火災訓練の地域参加。	近隣施設職員や地域住民に訓練へ参加して頂く。	6か月
2	36	1ユニットでは、人格の尊重やプライバシーの確保ができるよう研修が行われている。	両ユニットで、接遇についての研修を行う。	年間のユニット内研修の計画がある為、実施予定。	9か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。